

「解放派」が新たなる分裂の前に立っている

ローデヴェイク・ドロス

2003年11月21日

「新たなる解放」(nieuwe Vrijmaking)の旗印の下、最も新しい教会分裂がオランダ・プロテスタンティズムの中で輪郭を現してきた。支持者も反対者も、恐ろしい戦いを前に、備えている。

「解放派」(vrijgemaakt)の改革派教会は「生きている教会」である。少なくとも、そのことを、われわれは、マールテン・トゥハート¹の小説の登場人物が、エキュメニカル運動に参加したくない理由として持ち出した判断基準を用いて言う。すなわち「生きている教会は分裂する」²。

1944年の教会分裂によって生まれた「解放派」の改革派教会は、1967年に教会分裂(シスマ)を味わい(その結果、オランダ改革派教会(NGK)³が創立)、また今年、一つの新たなる分裂話が持ち上がっている。

「解放派」内の平均的な人々は、彼らの柱⁴が倒れた頃のようにではない。彼ら自身の新聞(オランダ日報(ND))⁵によると、「解放派」の改革派の学校は、「解放派」であるか否かによらず、他教派の子どもたちの入学を許可した。彼ら自身の政党である「改革派政治連盟」(GPV)⁶は、「オランダキリスト改革派教会」(CGKN)⁷に属する政党幹部と共に「クリスチャン同盟」(CU)⁸に吸収されてしまった。

こうした「衰退」へのリアクションは、予想できなかったものではない。不安な人々を

¹ Maarten 't Hart. <http://www.schrijversnet.nl/hart.htm>

² Een kerk die leeft, scheurt.

³ Nederlands gereformeerde kerken. <http://www.ngk.nl/>

⁴ 神学者クラス・スキルダーのこと。
http://www.two-age.org/redemptive_historians/Schilder%20Bio.htm

⁵ Nederlands Dagblad. <http://www.nd.nl/>

⁶ Gereformeerd Politiek Verbond. <http://www.gpv.nl/>

⁷ Christelijke Gereformeerde Kerken in Nederlands. <http://www.cgk.nl/>

⁸ ChristenUnie. <http://www.christenunie.nl/>

試みる「改革への呼びかけ」によって、非常に保守的な信徒たちが不幸な方向に向かって
いる。彼らのもとには、古参の牧師たちがいる。

P. ファン・フルプ (P. van Gurp)は、1944年の「解放」(解放派の創立)の場面にも関
与していた。彼の憂慮は、柔軟な教会団体が身をひそめた後の解放派の諸教会が、「見せ
かけ」(ファサード)になっている、ということである。正統信仰と日曜安息との磨耗に
よって、非聖書の讚美を鳴らし、聖書を批判にさらし、唯一の真実なる(解放派の)教会
を、エキュメニカル運動と引き換えに、下取りに出している。要するに、「解放派」の改
革派の信徒たちは、現代の「平凡な」(gewone)改革派の人々を非常に疑わしいものと見、
邪悪な連中と考えているのである。

呼びかけに対する支持者たちからのレスポンスは、わずかなものだった。告発された「解
放派」の執行部が少しも退却していないことを知ったからである。

不平分子は諦めなかった。彼らは、自らの抵抗運動の旗印として、「新たなる解放」と
いう堂々とした言葉を選んだ。しかし、量的にはそれほどの役割を演じていない。ベルケ
ル⁹の降り口であるツヴェインドレヒト¹⁰にわずか一握り、同調する家族が、ちらほらとあ
るだけだった。ところが、9月末にはファン・フルプの任地であるツヴォレの500人が鳴り
物入りで人を集めていることが分かった。オーフェルエイセルは、解放派の不満分子の中
心地である。彼らは、ファン・フルプの言葉に耳を傾け、「新たなる解放」を支持してい
る。彼らのすべてが教派離脱に同調するかどうかは、未だ定かではない。

ただし、不平を述べているのは、過ぎ去った時代への郷愁(ノスタルジア)を抱く古い
世代の人々だけではないことは確かである。彼らのウェブサイト¹¹では、「アッセン北部生
まれの数名の青年たち」が、モダニズムに対して苦言を述べるファン・フルプのほうへと
方向を変えている。彼らは語る。「われわれは教会分裂には反対である。しかし、いかな
る教会分裂もさらなる分裂を呼び起こす、という意味ではない」と。

歴史的に見ると、分裂は、両派の硬直化と共に信頼関係が引き裂かれるところで始まる。
不平分子の定期刊行誌『レフォルマンダ』(Reformanda)が、分裂後の先週、立ち並んだ。
「分裂」とは呼ばないほうがよいかもしれない。なぜなら、彼らが言うそれは、「解放派」

⁹ ベルケル村。 <http://www.berkelenrodenrijs.info/>

¹⁰ ツヴェインドレヒト町。 <http://www.zwijndrecht.be/index1.htm>

¹¹ 「新たなる解放」。 <http://www.gereformeerd.info>

の教会に不信感を抱いた人々が真の「解放派」教会を継承していくことであり、柔軟な信仰を捨て去ることではないからである。

硬直化は、公平な立場を拒絶するところに起こる。今さらこれ以上の議論を行うための舞台はない。しかし、「新たなる解放」を阻止する武器がある。

「解放派」内の反対グループは、ここぞとばかりに頑張った。「解放派」の学校の教師たちは、「解放派」に残留するか、それとも「新たなる解放」のほうに加わり、学校を解雇されるかを、まもなく選ばなければならない、と「オランダ日報」(ND)は、昨日報じた。5名の教師が、すぐに対象になるであろう。

不平分子側の法律家たちは、この解雇に対抗する手続きを検討している。それは、どの時代の教会分裂の際にも聞いてきた、長い訴訟である。

(関口 康訳)